

# コンクリートを結う

## 琉球調理製菓専門学校

この建物は、昨年4月に開校した調理師専門学校の新校舎です。てだこ浦西駅という沖縄モノレールの新駅開通にともなう都市計画によってつくられた新しい街区に建っています。

この新しい街で、人々の出会いや賑わいを生み出すような場所をつくりたいという学校の思いを形にするために、沖縄の方言で、人と人との繋がりを意味する「ゆい」という言葉を形で表現した、織物のような外観をもつ建物です。

学校を運営する事業主は、コンクリートの型枠工事業を専門とする建設会社を営んでおり、この建物も自社施工のような形で建設されました。この外観を覆う網目状の格子も、その経験豊富な型枠技術を活かして、現場打ちコンクリートによってつくられています。

実施設計では、審査機関と協議しながら、格子のピッチやサイズを決めました。外気に十分に開放されたバルコニーとして、条例で定められた開口率をクリアし、なおかつ消防隊の進入が可能な直径1m以上の開口の基準を満たしていますので、避難上有効なバルコニーとして消防設備の緩和を受けています。

同時に、その格子によって囲まれた回廊状のバルコニーは、直射日光を遮るブリーズソレイユとしての役割も果たしています。

施工段階では、工場で作成した原寸大の模型を、型枠の作り方や打設の手順を検討しました。本設の型枠は、工事現場の空き地で製造し、ユニット化した型枠をクレーンで設置しています。1層分の型枠を転用し、1階から4階までの4層分を打設しました。実際の施工手順においても、先に縦格子をバルコニーのスラブと一体に打設した後、横格子を下から順に打設するという、織物を織るような工程でつくられました。

平面計画では、各階の中央に設けた「ホール」を中心に教室を配置しました。この「ホール」を、学校生活の様々な活動を支える、中心的な場所にしたいと考えて、外側のコンクリートの格子に呼応するような、格子状のリフレクターをつかった光壁をデザインしました。この場所は、学生の憩いのスペースでもあり、試食会や作品発表会などの催しを行うスペースとしても活用されています。

現在も区画整理工事が続いているこの街区には、建物はまだほとんど建っていませんが、この学校が起点となって、賑わいのある新しい街並みが広がっていくことを願っています。



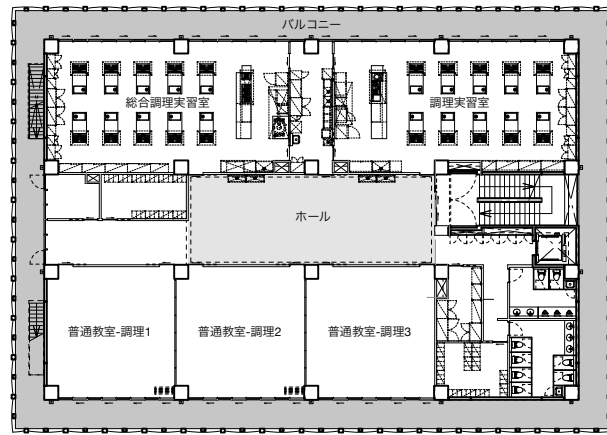
1: 1階はピロティ駐車場。敷地周りには街路樹としてクロキの並木を植樹している。コンクリートの格子は光沢のある撥水塗装によって空の色を写している。



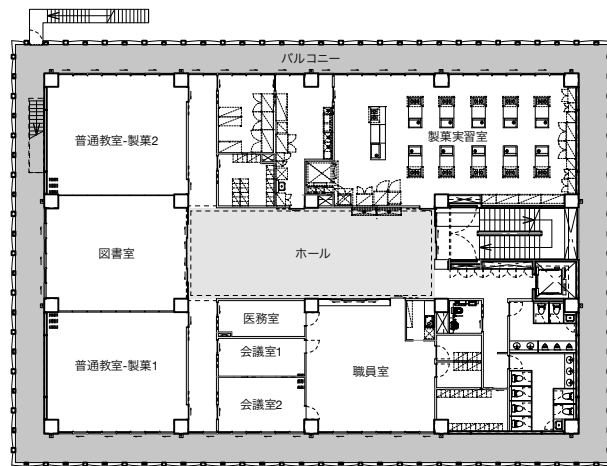
2,3: 深いバルコニーと格子によって、直射日光から室内環境を守ることができる。4: てだこ浦西駅方面からみる建物外観 5: エントランスアプローチ



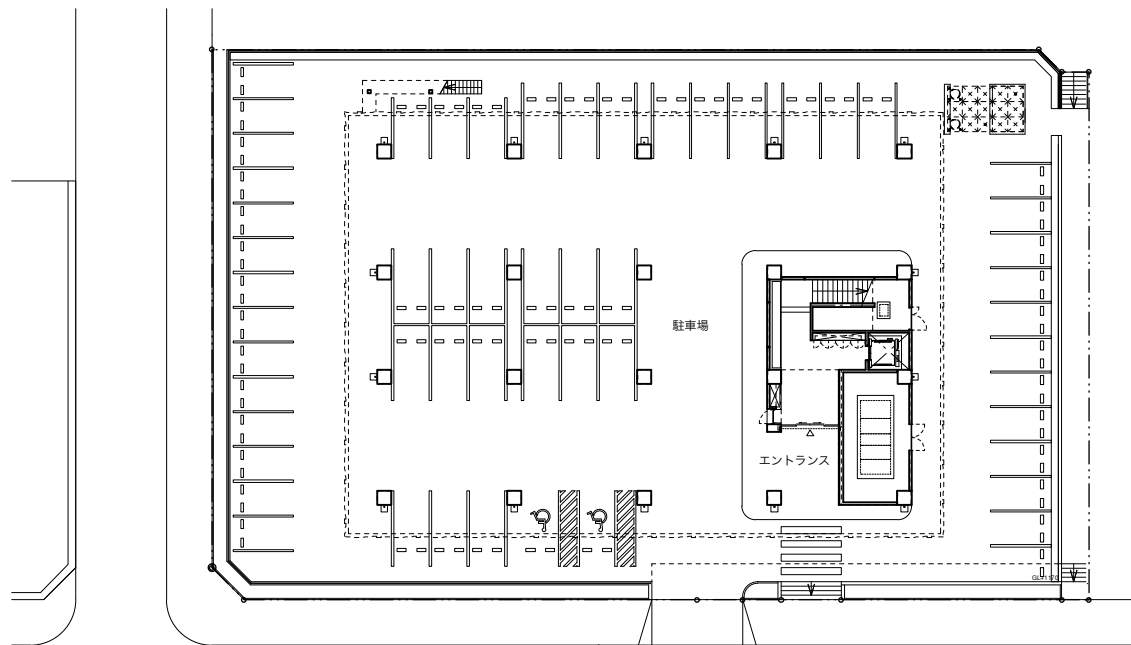
6: 合板で作成した原寸大の模型。型枠の作り方や打設の手順を検討している。7,8,9: 敷地内のヤードにて格子の縦格子の型枠をユニット化し、クレーンで立て込んでいる。



3F PLAN S=1/500



2F PLAN S=1/500



1F PLAN S=1/500



10

10：各階の中央にはホールとよばれるオープンスペースがある。このホールを中心に教室が配置されている。



11



12



13



14

ホールの周囲に配置された教室群。11：製菓実習室 12：調理実習室 13：図書室 14：普通教室

1. 工事名称：	(仮称) 学校法人みのり学園 専門学校棟新築工事				8. 建築面積：	1,106.87㎡
2. 工事場所：	浦添市前田3丁目 てだこ浦西駅周辺土地区画整理事業 12街区				9. 容積率：	110.06%
3. 都市計画区域：	都市計画区域内 市街化区域				10. 建ぺい率：	52.59%
4. 用途地域：	第2種中高層住居専用地域 (200/60)				11. 主要用途：	専修学校
5. 道路：	区画道路9-2号線 幅員9.00m				工事種別：	新築
6. 敷地面積：	2,104.92㎡				12. 構造・階数：	鉄筋コンクリート造 ・ 地上4階
7. 延べ床面積：	1階	2階	3階	4階	計	
	1,098.58㎡	845.46㎡	849.86㎡	138.80㎡	2,932.70㎡	

# 第10回沖縄建築賞

Okinawa architecture award

一般建築部門

正賞

株式会社かみもり設計

石川 保 殿

作品「コンクリートを結う

琉球調理製菓専門学校」

あなたの作品は、第10回沖縄建築賞の作品  
公募におき特に優れたものと認められました。

その栄誉を称え、ここに賞を贈ります。

令和6年10月19日

主催 沖縄建築賞実行委員会

(公社) 沖縄県建築士会

(一社) 沖縄県建築士事務所協会

(公社) 日本建築家協会沖縄支部

(株) タイムス住宅新聞社

実行委員長 伊佐 強



# 第10回沖縄建築賞

Okinawa Architecture Award

一般建築部門 正賞

石川 保 様

株式会社かみもり設計

作品

「コンクリートを結う  
琉球調理製菓専門学校」

2024年10月19日

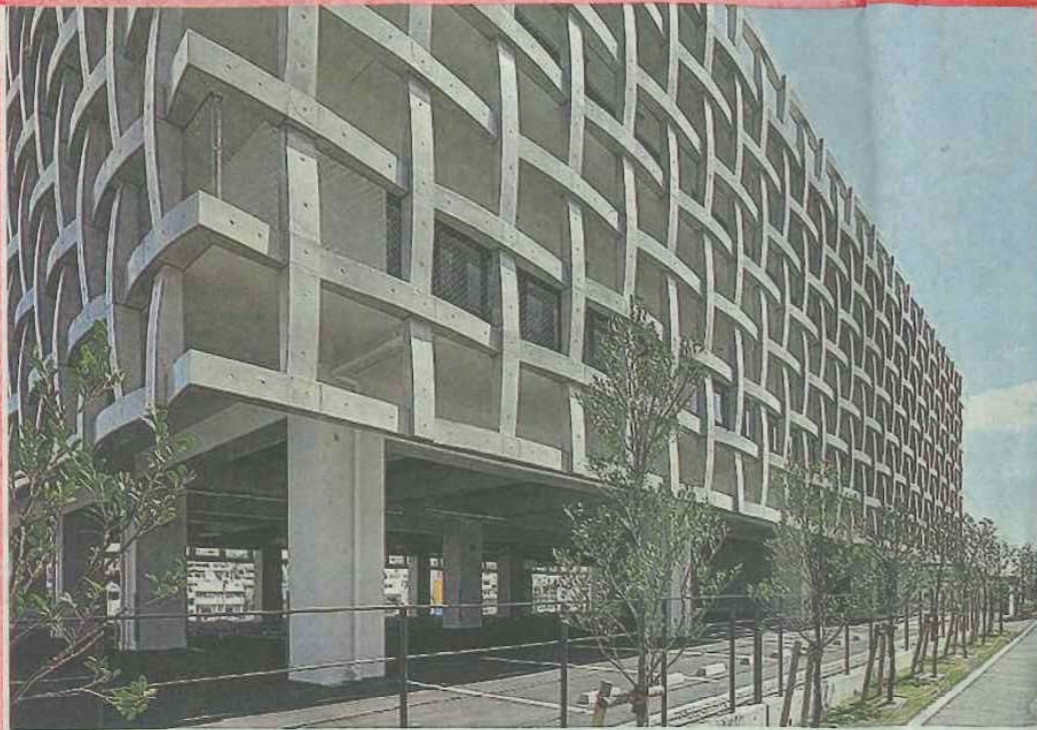
主催 沖縄建築賞実行委員会

実行委員長 伊佐 強



# 温暖化に対応 南国の挑戦

第10回沖縄建築賞の古谷誠章審査委員長（早稲田大学教授）は「建築を通して沖縄の過酷な暑さや台風を克服しようという試みは、地球温暖化が進む中で世界に発信する価値がある」と評価した。入賞した9作品を紹介する。（タイムス住宅新聞社編集部・東江菜穂、市森知） 11面参照



**正賞** 一般建築部門

石川保氏 かみもり設計

コンクリートを結う  
琉球調理製菓専門学校



**正賞** 住宅建築部門

仲本昌司氏 ADeR

亜熱帯のいえ



住宅建築部門の正賞に決まった「亜熱帯のいえ」はADeR（豊見城市）の仲本昌司氏（45）の自邸。台風に強い鉄筋コンクリートの外壁と、蓄熱しづらく調湿効果もある木造の屋根・室内壁で構成する

混構造の住宅だ。審査員は「内部は木造で、自然を感じられる思い切った空間。大胆だけでなく、鉄筋コンクリートの箱で耐久性などもしっかりと計算されている。今後の沖縄の家に影響を与えるであろう作品」と評価した。



タイムス住宅新聞社賞

正賞に次ぐタイムス住宅新聞社賞はクレールアーキラボ（沖縄市）の島山武史氏（49）らが手がけた「自然との境界」が受賞した。県内の不動産会社のオフィスで、建物内部に外部空間を取り込むよう計画。敷地に残る既存の大木な

一般建築部門の正賞は、かみもり設計（浦添市）の石川保氏（48）が設計した「コンクリートを結う 琉球調理製菓専門学校」。沖縄都市モノレールのでだこ浦西駅近くの新しい街区に建つ。縦系と横系を織り合わせるように現場打ちコンクリートで製作し、人と人とのつながりを表現した。コンクリ格子とテラスで室内空間を囲って日射を遮り、周辺との緩衝空間にもなっている。地域とのつながり方が高く評価された。

## 第10回沖縄建築賞入賞9作品 暑さ対策や自然と融和

などを極力伐採に県内の在来庭を隣接させが融合した有価された。

奨励賞は6渡久山設計良和礼氏（42）「イカルケア」的ケアを必要ちの支援・介庭などを設けり、自然を感じた。

ADeRのさか大浦。パー売所をリノベを増設し、飲で遊ぶ子どもた。

一級建築士（本部町）の「手がけた」築50年ほどの「イション」。切り壁を取り良さや室内が保した。

そのほか、設計事務所「まり子氏（47）」「ミニマル」クレールアーの「継承する見城市」の「勝連のリゾ」も高い評価を

